

令和元・2年度
南薩地区指定「外国語・外国語活動」研究協力校

指宿市立丹波小学校 研究公開

研究内容

- 1 研究主題と設定の理由
- 2 目指す子供像
- 3

研究主題

英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

「英語に慣れ親しみ」とは・・・
単語の獲得→文づくり→コミュニケーションという流れの中で、繰り返し英語を聞いたり、話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと。意図的に英語の日常化を図り、授業で学習したことを、生活の中で目にしたり耳にしたりすること。

「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童」とは・・・
コミュニケーションを図る目的を明確に持ち、自分自身で状況に応じた思考・判断をしながら、主体的に外国語を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとすること。

研究主題

【児童の実態から】

- ・ 明るく素直で元気がある。
- ・ コミュニケーションをとってはいるが、自分の思いや考えを伝えるための表現力に乏しい。
- ・ 新しい課題に出合ったときに、思考・判断しながら、自分なりに解決しようと挑戦する意欲にやや欠ける。

研究主題

【地域の特殊性から】

54% → 「子供だけで外にいるときに、外国の方に話しかけられたことはありますか。」に、「はい」と答えた児童の割合。

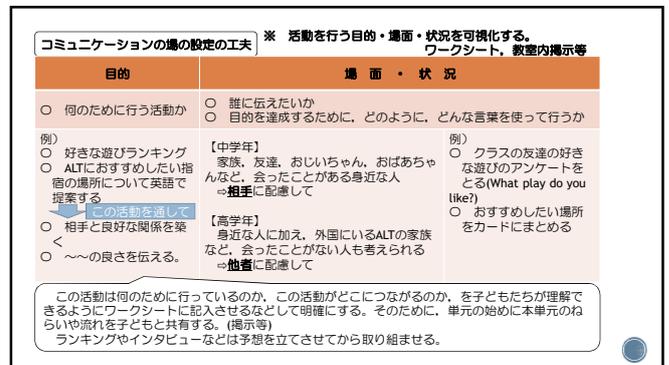
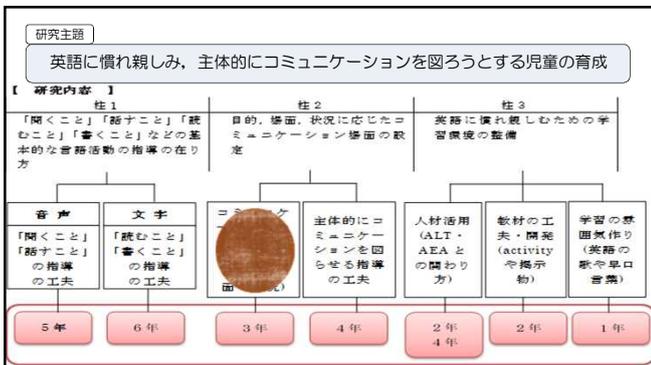
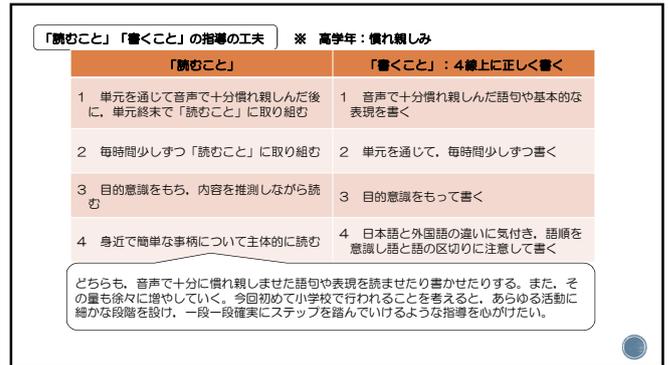
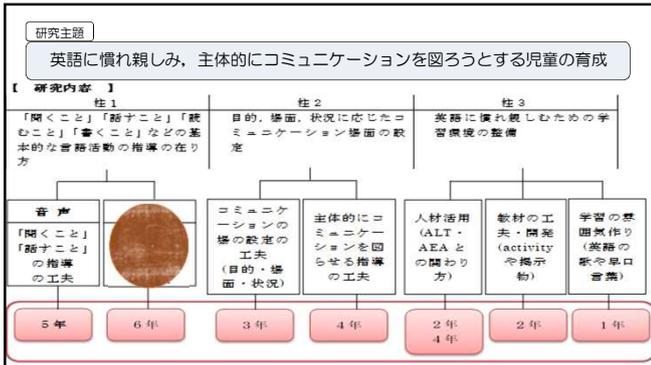
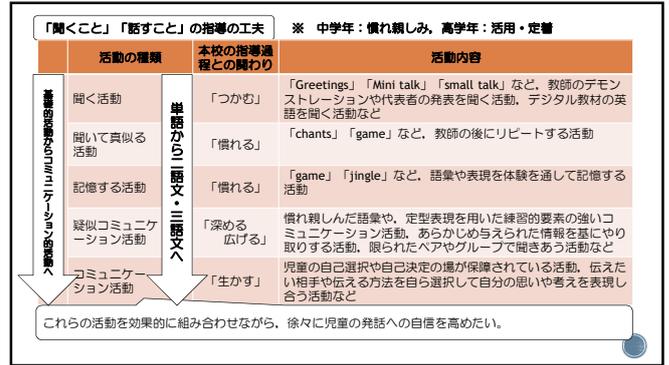
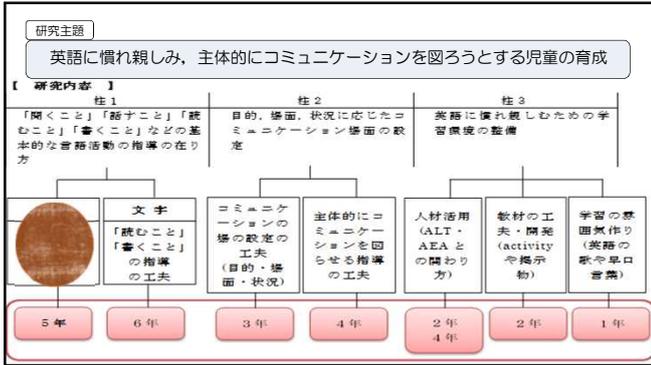
指宿は、県内有数の観光地であり、外国人観光客が年間8万人訪れる。
本校児童は、実際に外国語を用いてコミュニケーションを行う場面に遭遇していることが多い。

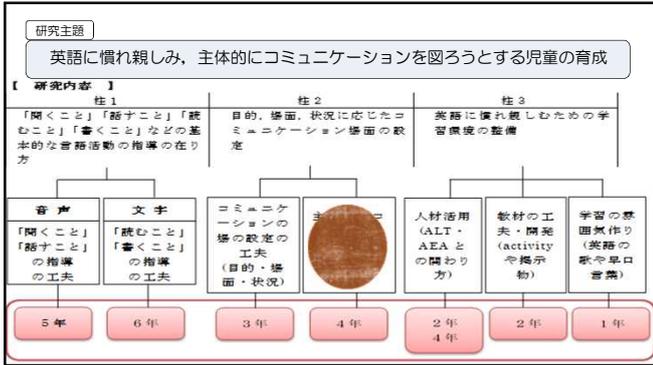
研究主題 目指す子供像

【地域の特殊性から】

54% → 「子供だけで外にいるときに、外国の方に話しかけられたことはありますか。」に、「はい」と答えた児童の割合。

指宿は、県内有数の観光地であり、外国人観光客が年間8万人訪れる。
本校児童は、実際に外国語を用いてコミュニケーションを行う場面に遭遇していることが多い。

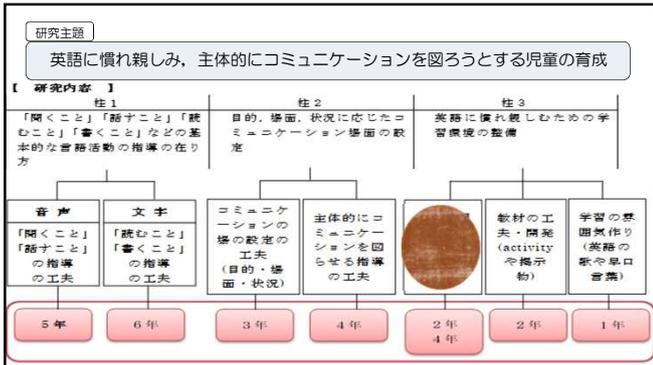




主体的にコミュニケーションを図らせる指導の工夫

つなぎ言葉	ふわふわ言葉	レスポンス
At first・・・ next・・・ finally・・・	はげます：Do your best! Good Luck! Nice Try! It's ok! ほめる：good. Nice. Great. cool.	2往復、3往復の会話が続くようにリアクションを工夫させる 繰り返す：I like sports. Oh, you like sports. 一言感想：I see. Me too. that's nice. 理由を尋ねる：why? 聞き返す：Pardon? one more, please. さらに質問：I like sports. What sports do you like?

コミュニケーションの際に意識している「6つのコミュニケーションポイント」に加えて、ねらいに沿っていろいろな方法を組み合わせる。伝え合うことに積極的になってくると、必要に応じてジェスチャーを使うようになる。また、相手の言葉に対して自然と反応を示し始めると考える。



学級担任は、正しい発音で授業を行うことを求められているわけではない！
正しい発音は、AEAやALTIに任せる。または、デジタル教材を活用する。

人材活用

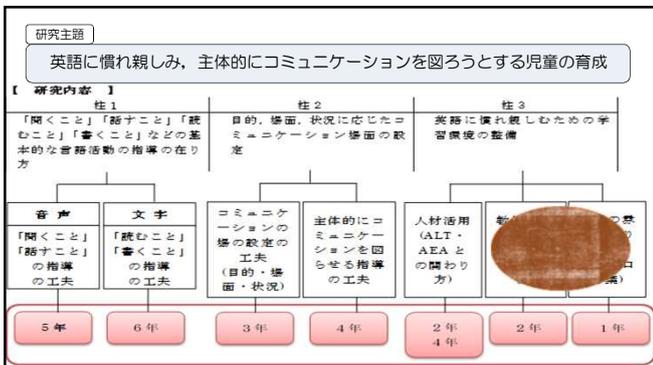
学級担任の役割：英語学習者の一人として、児童とともに英語を使い、学ぶ存在

- 児童にとってコミュニケーションの必然性のある場面を設定する。
- 児童の実績を考慮し、気付きを引き出ししたり、ジェスチャーや簡単な英語で児童の思いや考えを代弁したり、個別指導を行ったりする。
- 児童の反応を見て、ALT、AEAの発言をかみ砕いたり、繰り返させたり、ゆっくり言わせてたりするなど、ALT、AEAと児童をつなぐ。

AEA、ALTの役割：児童にとって、学んだ英語を実際に使えるコミュニケーションの相手

- 正しい発音を聞かせ、自然な表現をインプットする。
- 学級担任と英語でデモンストレーションしたり、児童と直接会話したりする機会を提供し、児童に「英語が使えた」という経験させる。

打ち合わせの時間
AEA(追先生) → 水・金の放課後
ALT(リカ先生) → 事前にレッスンプランを市教委に報告。



低学年の外国語活動

1・2年生は、創意の中で年間15時間の外国語活動を行う。各単元の時数が、1・2時間程度であるため、Final goalを設定したときに、下記のようなメリットとデメリットが考えられる。

【1・2年生がFinal goalを設定した時のメリットとデメリット】

メリット	デメリット
○ 児童が目的意識をもって主体的に学習を進められる。	○ 9つの単元全てにFinal goalを設定するのは難しい。 ○ Final goalの設定に無理が生じる可能性が高い。

そこで、昨年度の話し合いの結果、1・2年生についてはFinal goalは設定せずに、学期ごとに意識面での目標を設定することになった。(「丹波の教育」P73参照)

【1・2年生の学期ごとの目標】

1学期	2学期	3学期
英語に慣れよう	英語で楽しもう	英語で伝えよう

先進校の公開授業内容
山下小学校
第2学年「ALTの先生と仲良くなる」
内容 ALTに、けん玉、お手玉など日本文化の紹介をする。



言語活動

1) 学習指導要領の外国語活動や外国語科における「言語活動」

○: 言語活動である	×: 言語活動とは言い難い
○ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う。(話すことはもちろん、聞くことも含まれている。)	○ 英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動 ○ 英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合う要素がない活動(発音練習や歌など)=英語の「練習」と捉える。

※ 言語材料について理解したり練習したりするための指導とは区別されている。練習したことが言語活動につながるものとなっているか検討することが重要である。

学習指導要領の今回の改訂では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱を「言語活動を通して」育成することが重要であると示している。特に、外国語・外国語活動において言語活動の成否は、上記のように留意するように示されているので、指導の際に留意してください。

